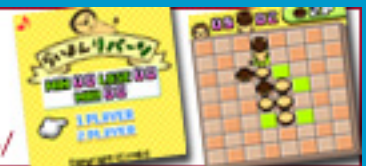




なんかやってるらしいよ
よう知らんけど...

携帯でアクセス <http://m.mbs.jp/>



MBS 毎日放送

世界ウルルン滞在記

世界ウルルン滞在記 毎週日曜日午後 10:00 ~ 10:54 放送中!!



世界ウルルン滞在記

毎週日曜日午後 10:00 ~ 10:54 放送中!!



みどころ

今回は俳優・江畑浩規(23)がパプアニューギニア東部の島、ニューブリテン島のラバウルを訪ね、トーライ族の生活を体験する。

ホームステイ先は、ブナマミ村に暮らすトーライ族のヘンリーさん(75)のお宅。ヘンリーさんは、村の伝統漁「カラマルミナト」の仕掛け作りの名人だ。戦争中は日本軍のために戦闘機のフライトボックスの回収する仕事もしていたというヘンリーさんは、当時覚えた日本の歌を次々と歌って聞かせる。中でも18番は「海ゆかば」。日本兵とは一緒に食事も作ったし、畑の作り方も教わったというヘンリーさんにとって、当時のことは「いい思い出しかない」という。

だが、戦後60年を過ぎ、村には戦争の記憶のある人が少なくなってきた。江畑は漁や畑仕事を体験する島の生活の中で、ヘンリーさんから戦争当時のトーライ族と日本兵との交流の話を聞く。さらに江畑は、村のお年寄りから当時の話を聞き集め、戦争に巻き込まれたトーライ族の歴史を芝居に仕立てることに...

内容

パプアニューギニア東部の島、ニューブリテン島のラバウルは、1942年に旧日本軍が戦略拠点を置いた地として知られる。戦時中は10万人を超える日本軍兵士がいたといわれ、島の人々は今も日本に対して深い思い

8月8日の放送は
世界ウルルン滞在記

ラバウル・日本の歌が
好きなおじいちゃん
に...
江畑浩規が出会った



出演

[進行]

徳光和夫・相田翔子

[回答者]

石坂浩 二

清水圭

山瀬 まみ

入れを持っている。今回は、俳優・江畑浩規（23）がラバウル近郊にある人口約2000人の村、ブナマミ村に暮らすトーライ族を訪ねる。ホームステイ先は、「カラムルミナトト」と呼ばれる島伝統の大きな竹製のトラップ漁の考案者、ヘンリー・ダブルさん（75）のお宅。江畑は、高床式住居に住み、漁業で生計を立てるトーライ族の生活を体験する。

戦争中には日本兵との交流もあったというトーライ族。彼らは駐留する日本兵から、日本の言葉や歌のほか、畑の畝の作り方やサツマイモの苗の植え方、さらには「うそをつかない」「約束を守る」といった道徳的なことまで、さまざまなことを教わったという。そうした知恵は、今なお彼らの生活の中で息づいている。漁や畑仕事を体験する中で、トーライ族の人々の日本人への思いを知った江畑は、ヘンリーさんをはじめ、戦争のことをよく知っているトーライ族のお年寄りから当時の話を聞き集め、お芝居に仕立てることに。漁や畑仕事の合間を縫って、江畑は芝居の準備に奔走する。

真中 瞳
〔ナレーター〕
下條 アトム
〔リポーター〕
江畑 浩規
ウルルンリンク!

ウルルンのさらに詳しい情報、バックナンバー、番組へのご意見は ururun.com へ!

‘TORAY’

毎日放送 テレビ

Copyright © 2003 By MBS ページに掲載の記事・写真の無断転用を禁じます。



戦争中には日本兵との交流もあったというトーライ族。彼等は、駐留する日本兵から日本の言葉や歌の他、畑の畝の作り方、ヤシの実を使ったお酒づくりなどを教わったのだそうだ。現在、村のお年寄りの中には、日本の歌を歌える人も残っている。今回は、江畑浩規が、日本の歌なら童謡から軍歌まで歌えるというトーライ族の生活を体験する。

プロフィール

profile

江畑浩規

TV「ファンタズマ～呪いの館～」 「新撰組！」 「ファイアーボーイズ～め組の大吾～」 「太閤記～サルと呼ばれた男から」 「ウォーターボーイズ」。映画「ローレライ」。舞台「マクベス」。

滞在地紹介

information

宝石

パプアニューギニア東部の島ニューブリテン島は、パプアニューギニア最大の島で面積は40,500平方km、日本の九州と沖縄を合計した広さに匹敵します。人口は約32万人。ニューブリテン島は東と西の2州で構成され、東ニューブリテン州の州都ラバウルは、かつては「南太平洋の宝石」とよばれ、世界中の旅行客で賑わっていました。1942年には旧日本軍が占領し、ニューギニア本島への戦略拠点となった。戦争中に10万人を超える日本軍兵士がいたといえます。





豊富な自給自足

ラバウル近郊に暮らすのがトーライ族。人口約8万人。素焼きの土器を作り、高床式住居に暮らし、漁業で生計を立てています。ラバウルの南東30kmのココポという町の西に位置するブナマミ村は人口約2000人のトーライ族の村。村の人たちは「カラマルミナトト」と呼ばれる大きな竹製のカゴを使った仕掛け漁をして暮らしています。捕れるのはタイ、サワラ、サメ、カメ、ナマコ、タコなど。自給自足の生活を営む彼ら、食料はタロイモやタピオカもち、サトウキビ、パンの実、魚のほか、大トカゲ、ヤシガニ、コウモリ、ムムトと呼ばれる大ネズミなど。石蒸し料理にしたり、ココナッツミルクで煮込んで食べています。果物もバナナ、パイナップル、マンゴー、ランプータン、スターフルーツ、ドリアン、パッションフルーツなど豊富です。

妖怪のヒント

伝統の「カラマルミナトト」漁は、竹で作った長さ3m、直径1m（最大1.8mにもなる）の紡錘形のカゴを、魚の通るポイントに仕掛け、4人一組でカヌーで漁をするもの。大きなカゴに魚が入れば海上に鳥が集まるので、それを目安に引き上げます。このカゴには300～500尾の魚が入るようで、引き上げるのは重労働。トーライ族伝統の仮面踊りは冠婚葬祭や儀式の時に欠かせないもの。円錐形のマスクに大きな目がついている唐傘お化けのような形をしています。これはトーライ族の精霊。村に入る男性は、太鼓や竹の打楽器のリズムに乗って踊る精霊たちに、出迎えられます。戦時中にラバウルに滞在した水木しげるさんも、このトーライ族の仮面踊りに魅せられた一人。妖怪のヒントにもなっているといます。



 日本の唄

戦時中から戦後にかけて、日本軍兵士と交流があったトーライ族。ヤバというバナナを発酵させて作るジャングルジュースと呼ばれるお酒は、日本軍が彼らに教えたものです。お年寄りの中には、日本の言葉を覚えていたり、日本の歌を歌える人たちもいます。日本の歌は、童謡をはじめ、軍歌など、多くの歌が歌われていて、子供たちも歌う。日本の兵士たちは、戦争とは関係ない流行歌や童謡などを好んで歌ったそうで、そういった歌がトーライ族の間にも受け継がれているのです。トーライ族の人たちは、日本人を見ると「ラバウル小唄」も歌ってくれます。「ラバウル小唄」は、戦争末期から戦後にかけて日本国内でも広く歌われました。この歌は、昭和15年にレコードが出た「南洋航路」の替え歌で、ラバウルにいた将兵の一人、佐竹中尉が歌い出したものと言われます。佐竹中尉は、兵隊を楽しませるために熱心に演芸班を支援したといえます。また当時、ラバウルにいた兵隊たちは「ココが黄昏て」という歌もよく歌ったのだといえます。